



ウイングトレーラ増車

年内にも 作業効率上げ労働時短

岐阜梱包

全車置ける駐車場整備

【岐阜】岐阜梱包（梱部友里社長、岐阜県大野町）は年内にも、ウイングトレーラの増車を行う。2021年11月に導入したところ、労働時間短縮の効果が表れたため、今後は駐車場の整備なども含め、ドライバーの労働環境改善を進めていく。（星野誠）

昨年11月、22台積載可能なウイングトレーラを初めて導入した。それまで金属製の輸送には平ボディ車を使っていたが、荷台の

21年11月に導入

シート掛けに最低でも1時間を要し、往復で作業時間が延べ2時間を超えるケースも少なくなかった。梱部社長は「積み荷は必ず確保しているので、往復で作業時間が2時間以上増しては困る」と話す。

ドライバーの労働環境改善では、駐車場が本社から離れていることも大きな課題だった。本社には休憩室、仮眠室、シャワールームがあるにもかかわらず、駐車場が本社から1・5kmの距離にあるため、車内などで休憩や仮眠をするドライバーが多かった。

梱部氏は「ドライバーのための本社施設なので、有効活用してもらわないと意味がない。現在の本社は荷さばきスペースしかないため、近隣の土地を確保した上で、ウイングトレーラも含め全車を置ける駐車場にする計画だ」と語る。

労働時間と給与については、全産業平均を目標に改善を進めてきた。厚生労働省の「賃金構造基本統計調査」では、17年のトラック運送者の年間労働時間は大型車で2804時間、全産業平均が2136時間、岐阜梱包は2200時間間で他業種に近づいた。年間所得も大型車454万円に対し、岐阜梱包は477万円だ。全産業平均の491万円に迫っている。

梱部氏は「現時点では他業種も更にとがっているので、早く500万円台に乗せたい。先日、製造業の転職希望者を面接し、工場の夜勤が残業なしで480万円だと聞いた。最低でもこの水準をクリアしないと人は集まらない。運賃が上がらない中で難しいが、待遇改善を進めなければ」と力を込める。